

教育目標			教育方針			
<p>予測困難な時代の中にあつて、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。</p>			<p>地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人一人の将来像の発見と実現に結びつける。</p>			
<p>自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E</p>						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑な校務運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員の情報共有をするため、Teamsを活用する。</li> <li>② 1～3部すべての生徒意識や職員間の意思疎通をスムーズにするため、学校行事はコロナ対策を徹底し、可能な限り一斉に行う。部ごとに行う場合は内容を統一する。</li> <li>③ 集会等ではICT機器を活用して適宜サテライト集会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 達成 職員打ち合わせや日常の連絡の効率化が図れている。さらに活用の幅を広げていきたい。</li> <li>② おおむね達成 中止したものを除き、感染対策を講じて実施できた。課題として、1～3部全員参加の行事について、3部生徒の負担を軽減できるよう開催時間などを再考したい。</li> <li>③ 達成 サテライト集会の実施もスムーズに行えるようになってきた。今後は誰でも行えるように、職員間での機材の扱いなど共有していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、学校行事を開催し生徒の学ぶ機会が確保できたことは組織的な対策ができていたからだと思う。</li> <li>・西北NEWSによって生徒たちの活躍を発信できた。地域へは、HP閲覧数をチェックし、魅力化を図ってほしい。</li> <li>・生徒の多くが多部制による利点から少人数授業の良さを感じていると思われる。クラブ活動等も取り入れられ、中学生等にも北高の魅力を発信してください。</li> </ul>
2		地域、中学校等への広報活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中学校に本校を理解してもらうため、オープン・ハイスクールや学校説明会を活用し、この地域における役割や教育活動の特色を伝える。</li> <li>② 毎月西北NEWSを発行する。</li> <li>③ 高校生ふるさと貢献活動、ボランティア活動を通じた本校の取り組みを地域や中学校に公開する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 達成 予定通りにオープン・ハイスクール、中学校教員への学校説明会を実施することができた。</li> <li>② 達成 毎月の発行に加え、東日本ボランティア実施の号外も作成できた。</li> <li>③ 中学校には本校の取り組みを西北ニュースで公開しているが、地域の方々へはホームページで紹介するにとどまっている。さらなる地域との連携が今後の課題である。</li> </ul>	
3		地域、育友会、同窓会等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 育友会及び地域の方々との積極的な交流を促すことで連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。</li> <li>② 杉原川CRP(クリーンリバープロジェクト)を通じて、育友会・地域の方々と交流を深める。</li> <li>③ ホームページを適宜更新し、地域や同窓生に本校の活動状況を公開する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、育友会や地域の方々との連携する機会を持つことができなかった。</li> <li>② 杉原川CRPは、職員・生徒だけの実施とした。コロナ感染症が収束すれば、育友会や地域の方々との連携を図りたい。</li> <li>③ おおむね達成 学校行事が行われるたびに、担当した職員がホームページで紹介できるようにしている。今以上に新鮮な話題を公開できるようにしていきたい。</li> </ul>	
4	教務部	多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。</li> <li>② 生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用をおこなう。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 達成</li> <li>② 達成</li> </ul> <p>ひょうご学力向上研究事業を活用し、観点別評価についての職員研修を2回行った。来年度の新学習指導要領の全面实施にむけての準備や職員への周知ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領のスタートに合わせ、西北らしさをシラバスに交え、さらなる魅力化を図ってほしい。生徒の興味・関心が高まることを期待する。ユニバーサルデザインによって助かる生徒はたくさんいると思われるので、生徒からの要望を取り入れていくことを期待する。</li> <li>・北高検定の数値化は学習習慣の定着や個別の学びにも繋がるすばらしい取り組みである。</li> <li>・基礎力を充実させるための北高検定において、解けなかった問題等の復習ができないのは残念です。せっかくのチャンス、何かのついでに再学習ですね。</li> <li>・多部制・単位制という特色は大きな武器だと思っています。生徒がこれを生かして自分を成長させ、目標を達成できるよう教員の方々にはご指導をよろしく願います。</li> </ul>
5		質の良い授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載)</li> <li>② 授業における生徒情報・配慮事項を全教員で共有し、生徒が授業を受けやすい環境を作る。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。</li> <li>③ オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 達成 次年度も継続する。</li> <li>② おおむね達成</li> </ul> <p>2年次以上の情報を授業開始前に資料にして伝達することができた。今後の課題は新入生についての情報提供である。入学後の授業の様子をふまえた情報を全教員に提供できるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 達成</li> </ul> <p>「〇〇力を育成する授業」をテーマにオープンスクールを2回実施した。2回目は目標と評価の一体化を意識した授業づくりを目指し、観点別評価を見すえた指導を実践できた。次年度もオープンスクール年2回実施する。</p>	
6		学習指導の効果を高める取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 習熟度別クラス(国・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。</li> <li>② 学校設定教科「コーピング」で習得した学習スキルを活用する生徒の割合を40%とする。</li> <li>③ 独自検定「北高検定」の5級以上認定者の割合を50%とする。</li> <li>④ 独自検定「北高検定」にむけた自主学習に取り組む生徒の割合を35%とする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 達成 次年度も継続する。</li> <li>② おおむね達成</li> </ul> <p>授業冒頭で学習スキルを学び、授業後半でそのスキルを活用する時間を設けた。外部教材を取り入れ、タブレット端末も使いつつ各自のペースで学習を進め、到達度テストはほぼ全員が受験した。年度末に生徒アンケートを実施する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ おおむね達成</li> </ul> <p>5級以上認定者の割合は、国語75.2%(昨年度74.3%)、社会65.1%(同56.0%)、数学46.4%(同50.1%)、理科64.0%(同63.6%)、英語39.5%(同52.9%)であった。来年度は事前学習や振り返り学習でタブレット端末を用いて、学習効果を高めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④ おおむね達成</li> </ul> <p>生徒アンケートで、「検定前にテキストを使って自分で勉強した」と回答した生徒は42%、「検定後、解けなかった問題等を復習した」と回答した生徒は28.2%であった。来年度は事後指導の効果を高める方法を研究したい。</p>	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底</li> <li>② 時間の厳守、あいさつの励行を推進するため、あいさつ運動を年2回実施する。</li> <li>③ 生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢の確立</li> </ul>	B	<p>授業を大切にすることは浸透してきたが、挨拶に関してはマナー指導も含めできる生徒を増やしていきたい。生徒が授業に集中できる時間が年々短くなってきている。次年度は、校内でのスマートフォン使用と集中力の因果関係に着目しながら、生徒の生活習慣を見直す仕組みを確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ依存の生徒が増加する中で、適切な取組をされていることに頭が下がります。スマホ依存と心のサポートの関係を振り下げることで生徒の不安感の軽減や集中力アップに繋げられるよう地道な取り組みを続けてほしい。</li> <li>・ボランティアの5原則(公共性・自発性・創造性・無償性・継続性)を大切にしながら生徒の取組が続いていくことを願っています。</li> </ul>
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。</li> <li>② 日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。</li> <li>③ 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が主体的に活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。</li> </ul>	B	<p>コロナ禍においてボランティア活動に制限が生じてきたが、新たな手段を用いて可能な活動を行うことができた。生徒の達成感も得られた。また、本校の特色である全員がボランティア部であることを活かし、さらに次年度は自主的な参加を促す取組を考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、いろいろと制約を受けますが、多くの友と共同作業(ボランティア活動)を行うとともに、元氣よく声掛けをして活動を大いにPRしてください。そして、自信を持ちましょう。</li> <li>・道で北高生に出会う機会は時々あるが、あいさつをしたことはない。なかなか知らない人に道であいさつすることは難しいと思われるが学校への来客に対しては進んであいさつをすることを徹底してはどうか。</li> </ul>
9		他人を思いやる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、年次だけで指導をするのではなく、学校全体で組織的に取り組む。</li> <li>② 生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。</li> <li>③ 校内外巡回を定期的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 積極的ないじめ認知を行う為に、教職員や保護者、生徒にいじめの具体例を示しながらいじめの定義を理解していただいた。</li> <li>② 校内外の巡回を通して、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の些細な悩みや行動の変化に気づくことができ、未然に事故の防止に繋がることが多くなった。今後はSNSに対する影響について理解を深めさせる必要がある。</li> </ul>	

教育目標			教育方針			
<p>予測困難な時代の中にあって、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。</p>			<p>地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人一人の将来像の発見と実現に結びつける。</p>			
<p>自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E</p>						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
10	進路指導部	インターンシップ・応募前企業見学の活用・充実	① 新型コロナウイルス感染防止の観点からインターンシップを原則1日で実施する。 ② 応募前企業見学については、一人2社まで必ず行かせ、ミスマッチを防止する。 ③ キャリア教育としての、インターンシップと応募前企業見学への参加率100%達成を目指す。	A	新型コロナ感染拡大の影響でインターンシップを期間短縮して実施した。また、就職希望者全員に応募前企業見学を一人で2社まで実施した。	<p>・3月9日に実施される西脇北高独自の取組(キャリア学習)に期待しています。先生方の計画性や生徒への思いが打ち合わせ段階で伝わってきました。キャリア学習の視点から就職の魅力や社会への貢献について考えて行けるように講義をしたいと思います。 ・キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き話を聞くことは実状を知る上で有意義な体験であると思う。自分の希望する就職先を見つけるためにもよい機会になればと思う。</p>
11		上級学校企業見学会ならびに進路ガイダンス・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	① インスパイア・ハイスクール事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ② 進路ホームルーム計画に基づき、進路ノート・キャリアノートの刷新を図ることで、キャリア教育を深化させる。 ③ 各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④ 「夏季補習」や「総合的な学習の時間」、「探求」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	新型コロナ感染拡大により、上級学校・事業所見学を3月に延期し実施する予定である。本校独自の「キャリアノート」を作成し、1・2年生の進路LHRで活用した。	
12		ハローワークや企業との連携強化	① キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演会を開催する。 ② JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100%を達成する。	A	キャリア学習ウィークについては、期間を短縮して実施する予定である。また、地元企業への働きかけやハローワークとの連携により、就職希望者に対する丁寧な指導ができた。	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	① 各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。	B	各教科の協力も得て、検定資格に前向きに取り組み、多くの検定資格試験に合格できた。	
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	① 就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。	B	現在のところ、就職内定辞退は無いが、就職後の早期退職は18%に上っている。	
15	保健部	保健安全管理・保健教育の充実	① 全校生を対象に健康相談を実施し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ② 学校医、学校歯科医と協力し、健康診断および事後措置を適切に行う。 ③ キャンパスカウンセラーと協力し、教育相談の充実を図る。 ④ 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑤ 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的に実施する。	A	① 新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、全校生に対して健康相談が実施できた。来年度も状況が許す限り、全校生への実施と継続的な保健管理や保健指導を行いたい。多くの生徒が何らかの健康課題を抱えており、それにかかる時間などが課題である。 ② 健康診断当日の未受診生徒は年次の教員の協力もあり、減少している。 ③ カウンセラーを二人体制にすることで、生徒・保護者・教職員など、様々な側面から実施できた。キャンパスカウンセリングを利用する生徒が多いため、コンサルテーションの時間を確保できず、情報共有を工夫する必要がある。 ④ 3月、7月、12月に定期安全点検を実施し、その都度上がってきた危険箇所については、事務室と連携しながら対応している。 ⑤ 新型コロナウイルス感染症の関係で充実した講話や研修を行うことができなかったが、リモート等で対応できた。次年度に向け、更に研修内容等を工夫する必要がある。	<p>・コロナ禍で生徒は不安定な心理状態だと思えます。教育相談をはじめ、子供達とのコミュニケーションが安心感を増やすと考えます。コンサルテーションや、多くの視点からのアセスメントで子どもの理解が進むことを期待します。 ・カウンセリング利用の生徒が多いとのこと。二人体制でも無理がある場合、増員はできるのか、検討の余地はある。</p>
16		保健安全課題に組織的に対応する	① 生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決を図る ② 各生徒が抱える健康課題に応じて、各年次や関係部所との会議を定期的に行う	B	① 生徒情報交換会を実施し、要配慮生徒一覧を作成し、生徒の健康状態や配慮について共通理解を図っている。また、保健部で定期的に小会議を行い、生徒の情報共有を行っている。その中で、全体に共有した方が良い情報は、年次だけでなく、全教職員と共有したり、対応策などを協議している。 ② 適宜、ケース会議を行い、生徒の健康課題等の情報共有をし、問題の解決を目指している。ほぼ全ての生徒が何らかの健康課題を抱えている。	
17	特別支援教育部	特別支援教育の充実	① 実態の把握(療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握や、中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップし、職員全体で共通理解をする。 ② 支援が必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図る。 ③ 生徒本人と保護者と連携を図り個別の教育支援計画を作成する。 ④ 適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①、②、③取組内容通りに実施することができている。今後についても継続していく。	<p>校務分掌に特別支援教育部があること、生徒や保護者にとって安心できる組織づくりであると考えます。中高連携シートが個々の特性に応じた支援をすることが、今後の成長にとって有効なことと考えます。 ・職員研修によって支援を必要とする生徒の対応、専門性の向上ができるようになったことは良かったと思う。さらなる進展を願っています。</p>
18		支援が必要と思われる生徒に対する進学・就労支援	① 中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得る。 ② 専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施する。 ③ 就職希望者で職業評価を希望する生徒には職業評価を申し込み、その結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ④ 高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように、自ら困難さがわかり、必要な場面でサポートを求める。サポートの必要性がある場合に、説明する相手を選び、そして、伝えることができるように、将来社会に出てから困難さが少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①について今年度も密に連携することができた。 ②について今年度は、職員研修会を6回実施し、支援を必要とする生徒の具体的な対応方法についての研修もあり、職員の専門性向上に繋げることができた。 ③については、昨年度より8名の担当者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになっている。今後の課題として、多くの職員が指導できる支援体制を作る必要である。	
19	人権・図書部	生徒が自分自身を大切に	地域貢献活動やボランティア活動等の体験を通じて、自己有用感を養う。	B	クリーンキャンペーンやCPRなどを通して地域とのつながりがもてた。また、ボランティアを通じて、生徒が人の役に立つという実感をもつことができた。次年度も、さらに地域貢献活動やボランティア経験を積めるよう呼びかける。	<p>・ボランティアでは「社会的自尊感情」が大きくなっていくことで子どもたちが成長できるので、この取り組みを大切にしていきたいです。一方、「生きていていい」「このままでいい」「自分は自分」と無理なく自然に思える「基本的自尊感情」は、校内や家庭での安心感が一番なので、特別支援教育部との連携でこの部分を高めていけることを願っています。</p>
20		生徒が生命の尊厳を実感する	授業や特別活動など、あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にすることを育む。	B	今年もコロナ禍で「人の命」を強く意識し、自他の命を守ることが人権の基本であることを伝えてきた。次年度も自他の命を守ることが人権尊重に通じることを意識させる。	
21		人権尊重の基礎を固める	「人権を学ぶ日」やホームルーム活動を通して、あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	B	今年度は外国人やSNSの人権という新しい問題に取り組んだ。基本的な事柄を学び、話し合いをする中で、個々の人権感覚の涵養を図った。次年度は、本校にも関わる新しい人権問題にさらに取り組む。	<p>・いじめの件数等が不詳ですが、SNS等によるいじめも人権に関わると思います。外国人の生活習慣等を学ばれています。12月の人権週間に合わせている人権問題を学ばれてはどうでしょうか。また、達成状況から見て自己評価が低いように思います。</p>
22		図書室の読書環境を整備する	① 生徒のニーズに合った書籍を購入する。 ② 生徒が本を探しやすいように適切に整理・配架する。 ③ 図書室の美化に努め、明るい雰囲気作りを努める。	B	2回のアンケートの実施により、生徒の希望する図書や教員の推薦する図書の購入を行った。また、生徒が利用しやすいように、引き続き環境整備を継続的に行った。次年度も更に取り組む。	
23		図書室活用・読書活動を推進する	① 図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持つような情報を提供する。 ② 「ピプリオバトル」を企画し、生徒の図書室利用を活性化させる。 ③ 「ライブラリーカフェ」を実施するなど、生徒が親しみの持てる空間とする。	B	昨年に続き、コロナウイルス感染防止の観点から、イベントの多くは中止とした。しかし、「ピプリオバトル」については国語科の協力もあって、通常の熱戦を開催することができた。次年度は、感染状況の問題もあるが、徐々に図書館の行事を活性化させる。	

教育目標			教育方針			
<p>予測困難な時代の中にあつて、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。</p>			<p>地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人一人の将来像の発見と実現に結びつける。</p>			
<p>自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E</p>						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
24	ボランティア・防災部	地域ボランティアおよび生徒の自主的な活動の円滑な実施	① 北高活性化委員会を中心に、ボランティア活動の参加や運営を行う。 ② 播州織をつかったワークショップを行うなど、地域に寄り添った活動を行う。	B	①委員会の積極的な活動は今後の課題である。 ②播州織に関する新たな取り組みに挑戦した。今後も続けていきたい。	・コロナ禍で防災ジュニアリーダー学習会は少し活動が制限されましたが、南海トラフ地震に向けての西脇北の取組(地域防災)や山崎断層地震などについても西脇北高生から地域の皆さんにその安全対策やまちづくりについて発信してもらいたい。 ・今回は3.11で悲惨だった大川小学校を訪れ、現地を見て緊急時の判断と行動の必要性について痛感されたと思います。日々の訓練、昔から伝わる言葉を重視し海岸近くにあつて多くの命を守った釜石市立鶴住居小学校等の行動も探求し、いざという時の行動を率先してとれるように伝えてください。
25		災害支援ボランティア活動への積極的参加および防災意識の向上	① 災害支援のボランティア活動や募金活動を積極的に行う。 ② 防災ジュニアリーダー学習会に参加し、防災に対する意識を高める。	A	①募金活動を通じて地域の人の温かさをとても感じている。 ②学習会の内容を地域の小学生に伝えるなど、積極的な活動につなげた。	・1.17の未経験者である生徒の皆さんが、被災地である兵庫県民として活動されることは、いざという時に自らの命そしてその場にいる人たちの命を守る行動につながりますので継続されることを期待します。
26		1.17を風化させない活動の実施	災害ボランティア活動や阪神・淡路大震災などの防災学習で得た知識を地域住民や、小中学生に語り部として伝える。	A	語り部活動を通じて、小中学生にしっかりと伝えることができた。今後、語り部を行う学校数を増やして、学んだことを発表する場を増やしたい。	・コロナ禍でも1.17の集いをもつことができたのはよかった。 ・クリーンキャンペーンでゴミ拾いをしているところを車で通りかかったことがあります。声をかけることはできなかったが、みんな頑張っていて、心の中で応援しました。なかなか学校生活の中で校外のゴミ拾いをするのは難しく、北高ならではの素晴らしいボランティア活動だと思います。 ・コロナ禍でも自分たちのできることを、先生と生徒が協力して実施されたのがよくわかります。安全に考慮し是非続けてください。
27	心のサポート委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	① 6月花いっぱい運動での花の育成を行う。 ② 災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	A	育成した花を育てたり、募金活動を行うなど活動できる取り組みを行った。コロナ禍において災害支援ボランティア活動・現地活動を実施することができた。参加した生徒は、校内での報告会を実施できたことにより、さらにボランティアに参加したことの意味や学びを自分の中に落とし込むことができた。また、全校生徒も現在の様子を知ることができた。	・講演会や研修会でしっかり学ぶ場があり、とてもよいことだと思う。またそれを実際の場で生かせるよう生徒との関わりが重要になってくると思われる。
28		生徒と教員の交流機会を創造する	① 学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ② 各部の連携と北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①清掃活動では、上級生が後輩に指示をするなど一定の役割を果たすとともに、積極的に活動を行った。 ②自殺予防プログラムの根幹の一つである取り組み。生徒たちの学校の中での居場所づくり、孤立化の防止を実現できた。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用する。 ② 職員研修会において講演会を実施する。	B	教職員を対象にした、命を大切にすることを育む実践・研究(自殺予防)の研修会を実施した。	
30	ネットワーク管理担当	ICTを利用した授業づくりの推進	①特別教室でタブレットとクラウドを使った授業展開できるように、環境を整える。 ②全教科がタブレットを用いて授業展開できるように、研修を充実させる。	A	①おおむね達成 環境整備は進んでいるが、突発的なトラブルに対応できる教員が少なかった。 ②おおむね達成 教員に対して教育用クラウドの概要など伝えることはできたが、具体的な使い方はなかなか研修できなかった。 次年度は、情報科以外の先生も環境整備やトラブルに対応できるように学校全体で環境の整備を実施していく。また、研修も定期的に行っていく。	・コロナ禍の中、小規模校ならではのネットワークの良さを感じました。 ・日本のICT教育は遅れているとの話を聞いたことがありますが、コロナ禍で急務になるなか、環境整備がおおむね達成とのこと。次年度も継続して実施されることを望みます。
31		オンラインシステムを活用した円滑な学校運営	①学校から離れた場所でも職員間で情報共有できる環境を整える。 ②生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。	A	①達成 TEAMSやOBS配信の利用 ②達成 Classroomや学校HPの利用 次年度も継続して。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の節約 ② 紙の使用量の削減 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	B	①こまめに空調の電源を切り切りすることにより、最大需要電力(デマンド値)を抑制することができた。 ②裏紙を再利用するなど、使用量の削減に努めた。 ③環境配慮型製品を選んで購入し、環境負荷軽減に努めた。 引き続き環境負荷の軽減に取り組む。	・いつも丁寧で心温まる接遇に感謝しております。 ・いつも気持ちの良い接客をしていただいています。ありがとうございます。
33		施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備 ② 樹木の剪定等の美化の推進	A	①定期的に安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲内で整備を行った。 ②計画的に樹木の剪定を行うなど、校内美化に努めた。 引き続き校内環境の充実を図る。	
34		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応 ② 迅速な電話対応	A	①②良い接遇が実践できた。 引き続き接遇の向上に努める。	